

令和7年度 第3回 松本「シンカ」推進会議 要旨

日時：令和7年11月6日（木）

13時00分～

会場：松本市立博物館講堂

1 開会

2 総合戦略局局长あいさつ

3 座長あいさつ

4 議題

(1) 人口ビジョン（案）

(2) 第12次基本計画（案） ※部会での議論後、全体共有

ア 前文（はじめに、基本計画）

イ 基本施策（各論）

5 主な意見

(1) 人口ビジョン（案）についての主な意見

- 人口に対する対応は、単独の施策で考えるのではなく、複数の施策を総合的に、網羅的に考えることが必要である。

(2) 第12次基本計画（案）についての主な意見

- <分野1>
- 失敗を乗り越える経験があることで、幼少期からチャレンジ精神を育むことが重要。高校生から親性を育むことも必要。こどもを真ん中にした専門職員の連携が取れると良い。
 - 結婚を求められることは若者にとってプレッシャーに感じることもある。
 - 行政サービスが充実しても、結婚する・子どもを産むは個人の価値観。
 - 高齢者は手厚く優遇されているが、若者には手薄いように感じる。高齢者と同じくらい優遇されるべきである。
 - 成果指標について、学校に来ることがすべてではない。不登校になっても「どこかでつながること」を成果としてもよいのでは。どこともつながれていない人の数値を減らすことが前向きだろう。
 - 福祉の視点が弱い。成果指標に子どもの虐待や貧困に対するものがない。松本市としての強みでもあるので、ぜひ検討してほしい。
 - 「LGBTに生産性がない」と言う人がいる。同性パートナーの里親もおり、対極にある。
 - かつこいい地域の大人と出会うと、地域への愛着がわく。「現状と課題」3つ目を「〇〇できると

〇〇になる」という前向きな表現に変えると良いのでは。

- 成果指標で LINE の登録者数で良いのか。
- メディア・リテラシーは「若者と活躍」と直結しないのではないか。
- 民間も含めて、居場所同士のつながりができると良い。また、マップのような一覧があれば。
- 重点戦略が事業との関連性が分かりにくい。
- みんなで学校教育を軸にして未来の松本を切り拓こうという旧開智の精神を、これからの学校教育のシンカにつなげたい。
- ウォークアブルな空間づくりのために、誰でもトイレの充実が必要だと思う。

<分野 2>

特になし

<分野 3>

- 信州大学にコミットできていないことが残念であり、惜しいと思っている。地域との結びつきが弱い場合、若者や学校があるにも関わらず、地域に活かしていない。
- 起業家を育成することに着目し、クリエイティブ産業を地域に根付かせることで、地域におけるイノベーションや魅力的な仕事に気付いてもらう方向にした方が、まちの発展にはプラスに作用する。この地域で起業したいと思う学生は一定数いるものの、自力でやるしかないのが現状であるため、支援することが必要である。
- 松本市には文化、芸術、観光など成功できるチャンスがある。今の若者はお金に縛られず、やりがいを探している。起業を志す若者に方向性を示してあげられればよい。
- 駅前に、学びや成果が得られる居場所があるといいのではないかと。そこに信大生が来て、地域のベンチャーのノウハウについて授業を受け、単位が取れるといった事業展開があってもいいと思う。まちなかでアクセスが良ければ、地域の経営者がゲスト講師として自分の経験を話すこともできる。
- 東京にオープンキャンパスで来る高校生の話を聴くと、「地域に関わりたい」「人と人をつなぎたい」という欲求が強い学生が増えていると感じる。しかし、具体的なイメージまではついていないようである。信大生を含めて、地域における企業・起業をリアルに感じられたら、東京へ就職のために出ていく必要性を感じなくなる学生は増えるのではないかと。
- 中学生以下の場合には親を移住させることが必要になってくる。一方、高校・大学生は、自分で選択する準備が始まる時期である。働いている人を呼び込むよりも、高校・大学生に原体験を植え付けることを戦略的に考えてもいいと思う。
- 「松本に来れば起業家になれる」という PR が必要だと思う。「～塾」のような取組みもいいかもしれない。
- 行動指針の最後が「いどむ」であり、いどみやすいまち、いどむまち、いどむ人を応援するまち、というブランディングができるといい。
- イギリスはかつてクリエイティブ産業政策として注力する 13 項目を明確にした。松本でも、文化、芸術、観光、自然、農業など、松本ならではの強みを明確に打ち出していく必要がある。そうしな

ければ、特徴のない他と変わらないまちになってしまう。

- 人手不足のため外国人の雇用をしないといけない事業所、中小企業は多い。企業支援という視点での外国人支援が必要だと思う。今朝の新聞で、27.9%が外国人を雇用している事業所であると見た。支援の対象が個人だけでなく、雇用している事業所、企業という視点も必要だと思う。
- 企業はイニシャルコストをかけて労働者を受け入れるが、育成就労制度になってからは転籍の自由が得られたので、1年後にみんな東京に行ってしまったということもある。定着させることは難しい。
- 3-3 について修正点はないが、全体を通して、防災・まちづくり（中心市街地の活性化）・観光の3つは密接に関係している。例えば、3-3 は防災に関してソフト面から着目した地域住民による防災の取り組みの記載となっており、5-11 では、行政の取り組みに着目した記載となっている。5-11 の「建物耐震化の推進」について、松本市の趣のあるお城周りの景観を形成している重要な要素は木造住宅である。木造住宅密集地（木密）は、景観上重要な要素である一方、地震時等の脆弱性を抱えているという側面もある。建物の耐震化については、防災だけでなく、空き家対策の一環としても取り組み、観光やまちづくりともリンクさせていく必要があり、また、行政だけで進めるのではなく、地域の自主防災組織や自治会等も連携しながら進める必要がある。
- 各ページの右端等に関連する基本施策の番号が書いてあると良いのではないか。
- 5-11 の成果指標に「住宅の耐震化率」について、現状値が90.3%とかなり高い数値に見えるが、現状と課題に「依然として市内各所に危険度が高い住宅街が点在しており」とあるように、例えば1年間の木造住宅の耐震化件数を指標とする方が適切なのではないか。
- 都市と地方が限られた人口を分け合うことは重要で、常住するのではなく、週末だけ松本市に住むような人も大切な人材だと思うが、松本市がどうやって関係人口を引っ張ってくるかが大切である。

<分野4>

- 先ほど何を強みとして推すかという話が出たが、松本として「循環」を促進させるということはいかかもしれない。
- 松本でないといけない、松本でやるから現場でコミュニケーションとりながら学び、実践できるという、松本市ならではの推せるポイントは必要だと思う。
- 市として企業の実証実験場をPRすることは、新産業の創出、雇用の拡大につながると思う。松本は、日照時間が長く、寒暖差が大きいいため実験場として適している。太陽光など、企業との具体的なコラボレーションがあるといい。
- ゼロカーボンを目指すことが、良い企業が増え、人口の社会増につながり、若い人も増えるという好循環につながるように、市として良い企業を狙って誘致できることが望ましい。これから伸びる企業を誘致して育つのを待つ時間はないので、既にある程度成熟している企業を誘致する必要がある。
- 4-1 の成果指標に温室効果ガス排出量があるが、それだけではなく、主な事業にある住まいのゼロカーボン推進事業や地域エネルギー導入支援事業、市有施設LED化事業、EVカーシェアリング事業等の成果も見えるように、成果指標に追加するのはどうか。

<分野5>

- 公共インフラをまとめると言うのは簡単だが、更新する基準の判断は非常に難しい。
- 人口減少や老朽化が進んでいく中で、上下水道などを維持していくためには利用料を上げていけないといけない。それを踏まえると、計画に明記していくことは大切なのではないか。インフラについても、建て替えるもの、なくしていくものの基準を作って運用していくことが必要だと思う。
- 今まで以上に官民連携が柔軟に、強化されるべきだと思う。連携をしないとできないことは結構あると思う。
- 災害が激甚化しており、災害に強いまちづくりの重要性が高まっているが、それが企業誘致にもつなげていけると良い。人口ビジョンの中で若者が結婚せず、出産しない現状があるという話があったが、人を呼び込もうとしても、働きたいと思える企業がない可能性がある。例えば水が豊富にあることや台風が少ないこと等、松本市の特性と合った企業がどのようなものなのかを把握したうえで、戦略的に誘致することが大切だろう。企業誘致の際に、災害リスクが少ないことが、企業にとってのメリットになると思うので、ゼロカーボンを通して防災に力を入れられると良いと思う。

<分野6>

- 人口の話になるが、流動的な人口がどれだけいるのかを考えないといけない。在住している人口だけをベースにしていると、経済的な試算がしづらい。そういった人口が何人いるのか、数値が見えてくるといい。
- 行った先の土地では何か食べたくなる。まちの中で食べ物に関して楽しみを創出できないか。そうすることで魅力が高まると思う。松本には気軽に回れるようなところがない。
- 松本の良いところとして、水が豊かで、廃湯がある。循環させれば野菜ハウスを作ることもできる。

<分野7>

- 企業と連携するムーブメントも起きると良い。

(3) 全体での共有

- 教育厚生部会
- 基本施策 1-1 結婚・出産・子育て支援の充実において、課題の設定に、「同性パートナー」や「里親」というフレーズが含まれるようになったことは喜ばしいことという意見が出た。
- 1-2、1-3 については、まず子育て観や出産、結婚などに対して、色々な制約がある。それらに対して、制約を除去するサービスも重要である一方で、そもそも価値観を形成する上での教育的な側面も大事ではないかという意見が出た。
- 1-4 子どもの権利保障と子ども福祉の推進については、他の自治体では、行政計画の中に「子どもの権利」というフレーズがなかなか入らない中、松本市は、「子どもの権利を保障する」というフレーズが入っていることも素敵なことだという意見が出た。

- 1-5、1-6 について、基本施策の名称が物語っているように、若者自身が活躍できる環境を作っていくという点と、子ども・若者「による」という名称から、子どもや若者を主語・主体として位置付けていくということがきちんと記載されている点は引き続き着目したいという意見が出た。
 - 子どもの施策については啓発という側面が前面に出ることが多いが、啓発から参画へ移行するため、子どもたちや若者が参画できる機会を散りばめていく必要があるという意見が出た。
- 経済文化部会
 - 個別の基本施策のシートについては、これまでの議論が反映されているため、中身や文言に特段違和感は出なかった。
 - 経済文化部会として、まず経済や産業をしっかり確立しないと移住定住につながらないと考え、特に産業をどう考えるのかという議論になった。
 - キーワードとして、信大が挙がった。せっかく信大があるのにもかかわらず、なかなか松本に残って何かをするということがない。就職をするというよりは、起業をする、しやすくするという環境整備が重要なのではという意見が出た。
 - 経済分野は、将来予測が不透明であるため、柔軟に捉えていきつつ、どのような施策を打つべきか、判断が難しい分野でもある。民間だけでも、行政だけでも対応が難しい分野であり、民間と行政で連携を意識していくことが重要という意見が出た。
 - まちのゾーニングの考え方も重要という意見も出た。
 - 松本のブランディングを考えると、行動指針の最後に“いどむ”とあるので、産業を生むためにも、いどみやすいまちという打ち出しが必要である。
 - 都市計画部会
 - 施策間を横断する意見が多く出た。例えば、3-3「地域防災・防犯の推進」に記載のある人の育成・支援も重要だが、同時に木造建物の耐震化を広めていくことも必要なので、5-11「防災・減災対策の推進」にもつながるところがある。施策の中に関連施策がわかる記載があっても良いという意見があった。
 - 関係人口に関する記載が弱い。関係人口が専門人材として松本市で活躍するようになるかもしれない。
 - 企業誘致については、どのような企業を誘致したいのかを狙う必要がある。ゼロカーボンを推進するのであれば、ゼロカーボンに積極的に取り組んでいる企業を誘致することも有効だ。森林保全のためには、林業の仕事としての魅力の向上による人材確保が必要。魅力のある仕事が増えれば、人口増につなげていくことができる。全ての施策が人口増にどうつながっているのかが分かると良い。